

平成26年度の地理Bも、全ての大問に図表・写真が多用された。地図7(うち地形図新旧比較2)、写真6(うちドバイ4)、図表14となっている。最近のセンターは地名を直接問う問題は出されず、説明文の正誤、長文中の語句判定、グラフや写真の読み取りなどが出題される。今回も、地震発生の分布を経度帯ごとにグラフ化したものや、年平均気温と年較差の散布図、同経度の1月と7月の降水量を緯度別に表したグラフなどが扱われた。地名や統計の単純な暗記ではなく、地理的事象の因果関係の中で理解し、図表・写真を判読する力が必要とされる。

完全マスター
地理B問題集
的中状況



| 大問 | 問 | 平成26年度 センター試験 地理B解説 | 頁-問 | 的中 |
|------------|----|--|--------|-----|
| 世界の自然環境 | 1 | プレートの出題。図にない海嶺・海溝・造山帯を想定する。ハワイ諸島はホットスポット上にでき移動。 | 10-2 | ☆☆ |
| | 2 | 経度帯ごとの地震発生数のグラフ。新期造山帯、特に海溝の位置に注目する。 | 17-9 | ☆ |
| | 3 | バイカル湖・カスピ海・スペリオル湖の成因を問う。バイカル湖は琵琶湖と同じ断層湖。 | 41-8 | ☆☆ |
| | 4 | 世界の成帯土壌の出題。褐色森林土は温帯の典型的な成帯土壌。 | 32-11 | ☆☆☆ |
| | 5 | 大陸東岸は西岸よりも気温年較差が大きく、雨量も多い。東岸・西岸・内陸気候の特徴を判読する。 | 24-3 | ☆☆☆ |
| | 6 | オーストラリア北部は夏(1月)が雨季でAmあるいはAw。インド側はモンスーンの影響で7月が雨季。 | 129-21 | ☆☆ |
| 世界の資源と産業 | 7 | カリブ海島部、パンパ、ナイル川流域の農業成立の出題。黒人奴隷労働、冷凍船、ダムによる灌漑が特徴。 | 123-16 | ☆ |
| | 8 | 米の生産・輸出シェアから判断。人口の多い中国・インド、輸出の多いタイ。残りがアメリカ。 | 135-5 | ☆ |
| | 9 | 鉄鉱石・金鉱・銀鉱の産出量の多い国を判読。オーストラリアとブラジルは鉄鉱石の大輸出国。 | 129-21 | ☆ |
| | 10 | 輸出品の変化を判読。韓国は輸出指向型の衣類、フィリピンは丸太輸出規制前は木材が多かった。 | 53-4 | ☆☆☆ |
| | 11 | アメリカ、インド、オーストラリア、日本の産業立地。インドは時差を利用しハイテク産業が成長。 | 72-4 | ☆ |
| | 12 | ニューヨーク、ロンドン、東京の株式取引額の比較。イギリスは共通通貨ユーロを導入していない。 | — | — |
| 都市と生活文化 | 13 | 発展途上国は都市人口率は低い急上昇中。アフリカは都市に仕事がなく都市への人口移動が少ない。 | 88-2 | ☆ |
| | 14 | 田園都市構想→ニュータウン構想→ウォーターフロントの順。田園都市構想を基本に再開発が進んだ。 | — | — |
| | 15 | A: 経済力のある大都市, B: 郊外の住宅団地, C: 郊外。大都市では昼夜間人口率が高い。 | 89-3 | ☆ |
| | 16 | 小学校は等間隔、金融機関は市街地、大型小売店は街道沿いに立地。自宅周辺の分布も参考になる。 | 98-8 | ☆ |
| | 17 | 光熱費多いのは冬に寒冷な北海道、住宅の狭さは東京と考える。四国は温暖で光熱費は少ない。 | 35-2 | ☆ |
| | 18 | 囲郭都市はフランス・ドイツなどヨーロッパの古代~中世の都市。アメリカや日本にはない。 | 99-9 | ☆ |
| 地誌・西アジア | 19 | 西アジアの集落分布。首都の位置に気づけばやさしい。Cはティグリス・ユーフラテス川流路から判読。 | 114-7 | ☆ |
| | 20 | 砂漠気候のクウェートで地表水は得にくい。原油収入最大のサウジでは淡水化プラントから得られる。 | 113-6 | ☆ |
| | 21 | 石油収入が多くても、1人当たりGDPが高いとは限らない。原油産出量の多い順を覚えておく。 | 66-1 | ☆☆☆ |
| | 22 | Kはアラブ首長国のドバイ。商業ビル、淡水化工場、リゾート、ビル工事現場の写真に関する出題。 | — | — |
| | 23 | ボスポラス、マンダブ、ホルムズ海峡の出題。湾岸諸国の原油に依存する先進国には重要な輸送路。 | 113-6 | ☆ |
| | 24 | イラン、エジプト、サウジ、トルコの政治・民族の比較。トルコは原油不足解消のため原発計画を推進。 | 114-7 | ☆☆ |
| 現代世界の諸課題 | 25 | オーストラリアの森林減少は耕地拡大のため。乾燥地域では、夏の高湿乾燥時に山火事が自然発生。 | 59-10 | ☆ |
| | 26 | 木材発電用の植林ではなく廃材利用が中心。フランスの電力の7割が原子力。植林からではコスト高。 | — | — |
| | 27 | センターピボットは大規模灌漑農業で、地下水を利用。地下水の塩水化、水温上昇、成分変化が課題。 | 15-7 | ☆☆☆ |
| | 28 | 発展途上国の鉱産資源開発は、先進国の資本力が強い。ザンビアは外資進出による銅鉱輸出で繁栄。 | 115-8 | ☆☆☆ |
| | 29 | 資源リサイクルを経済大国、福祉国家、新興工業国で比較。スウェーデンでは廃棄物リサイクルが進む。 | — | — |
| | 30 | 各国の医療費の公的負担を比較。日本・デンマークは皆保険、アメリカ・インドは任意保険。 | — | — |
| 地域調査(知多半島) | 31 | 地図の上が北であれば、北東~南西はどうなるか。地形図・地勢図の北は上である。 | — | — |
| | 32 | 最も高齢化が進むのは半島南端の南知多町。知多半島のことを知らなくても、階級区分図から判読。 | 95-8 | ☆ |
| | 33 | 成岩街道の南、愛知用水の東にはため池が残る。地形図のため池は水田に水を供給するために重要。 | 7-4 | ☆☆ |
| | 34 | 中部空港は工業地域から遠い。軽小で高価な商品を輸出。成田空港も半導体・通信機などが多い。 | 83-3 | ☆☆ |
| | 35 | 地形図には、細道の崖・斜面を補強する構造物は描かれない。 | 95-5 | ☆ |
| | 36 | 製陶工場は原料立地型の伝統的地場産業で零細工場が多い。1960年以降は原料輸出型の臨海工場。 | 79-10 | ☆ |

2014年
大改訂



新指導要領対応

センター国公立大入試対策・地理A共用

完全マスター地理B問題集

良問128実践トレーニング

改訂版

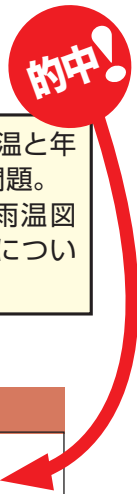
B5判・本文136頁 / 別冊解答・解説64頁
定価：本体800円(税別)

2014年度 センター試験 的中例

センター 第1問 世界の自然環境 問5

問5 次ページの図3中の①～④は、図1中のR～Uのいずれかの地点における気温の年較差と年平均気温との関係を示したものである。Uに該当するものを、次ページの図3中の①～④のうちから一つ選べ。 5

[資料年表]により作成。



的中!

東岸と西岸の平均気温と年較差の違いを読み取る問題。完全マスターでは、雨温図の読図から、気候因子について考えさせます。

完全マスター p.24 気候因子

第2問 次の雨温図ア～オに関連し、各問いに答えなさい。

ア

年平均気温 16.3℃
年降水量 1528.8mm

イ

年平均気温 11.8℃
年降水量 640.3mm

ウ

年平均気温 5.8℃
年降水量 706.5mm

エ

年平均気温 27.6℃
年降水量 2199.0mm

オ

年平均気温 21.7℃
年降水量 34.6mm

問1 雨温図ア～オに当てはまる気候は、それぞれ①～⑩のどれか。

ア 4 イ 5 ウ 6 エ 7 オ 8

① Af ② Aw ③ Cfa ④ Cfb ⑤ Cw ⑥ Cs
⑦ Dfb ⑧ Dwd ⑨ BW ⑩ BS

問2 雨温図ア～オに当てはまる説明文は、それぞれ①～⑥のどれか。

ア 9 イ 10 ウ 11 エ 12 オ 13

- ① 冬は雨季だが、夏は亜熱帯高圧帯におおわれて乾季になる。乾燥に強い作物として、柑橘類・ブドウ・オリーブが栽培される。
- ② 地下灌漑水路としてフォガラが使われる。オアシスにおいては、ナツメヤシの栽培が特徴的である。
- ③ 大陸西岸で典型的な気候。偏西風と暖流の影響を受け、気温の年較差が少ない。高緯度でも温暖である。年中降水があり、雨季・乾季の区別はない。
- ④ 大陸東岸で典型的な気候。四季が明瞭だが、夏の高温が著しい。植生は多様であり、常緑広葉樹から落葉広葉樹にまでおよぶ。
- ⑤ 植生は針葉樹が主体であるが、広葉樹との混合林もみられる。土壌はやせ地であり、農業生産力は低い。
- ⑥ 常緑広葉樹が分布する。土壌はやせ地のラトソルである。油ヤシのプランテーションが増加している。

センター 第2問 世界の資源と産業 問4

問4 下線部①に関して、工業化の進展は輸出品目に反映される。次の表1は、1980年と2010年における韓国とフィリピンの輸出品目について、上位5品目とそれらが輸出総額に占める割合を示したものであり、サ～スは衣類、自動車、木材のいずれかである。表1中のサ～スと品目名との正しい組合せを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 10

表1 (単位：%)

| 順位 | 韓国 | | フィリピン | |
|----|-----------|-----------|---------|-----------|
| | 1980年 | 2010年 | 1980年 | 2010年 |
| 1位 | サ 16.9 | 電気機械 26.5 | 砂糖 11.4 | 電気機械 64.0 |
| 2位 | 繊維品 12.6 | シ 11.4 | やし油 9.8 | シ 3.6 |
| 3位 | 電気機械 12.0 | 船舶 10.1 | 銅 9.4 | サ 3.4 |
| 4位 | 鉄鋼 9.4 | 一般機械 8.3 | ス 4.9 | やし油 2.5 |
| 5位 | はきもの 5.0 | 精密機械 7.9 | 果実 4.3 | 精密機械 2.3 |

【国際連合貿易統計年鑑】により作成。

| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| サ | 衣類 | 衣類 | 自動車 | 自動車 | 木材 | 木材 |
| シ | 自動車 | 木材 | 衣類 | 木材 | 衣類 | 自動車 |
| ス | 木材 | 自動車 | 木材 | 衣類 | 自動車 | 衣類 |

韓国・フィリピンの1980年と2010年の輸出品変化を考えさせる問題。
完全マスターでは、東南アジア4国について、1968年と2010年の輸出品の変化について出題しています。

的中!

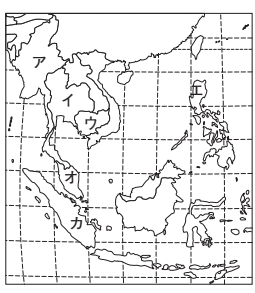
ASEAN 発展解説

ASEANはベトナム戦争中の1967年に結成された軍事同盟であったが、1984年のブルネイ加盟を機会に、経済協力同盟として再出発した。1995年のベトナム加盟以降、先進国からの直接投資が増加。輸出品は農林水産業から工業製品に変化し、経済成長が著しい。フィリピンの主要輸出品は先進国同様、電気製品・自動車などになった。

完全マスター p.53 東南アジアの農業

4 東南アジアの農業

右表は東南アジアの4国(a～d)の輸出変化を示す。表と地図を参照し、各問いに答えなさい。



| | a | | b | |
|------|-------|-------------|--------|----------------|
| | 1969年 | 2010年 | 1969年 | 2010年 |
| 天然ゴム | 634 | [x] 83 280 | 米 | 142 [x] 61 953 |
| すず鋏 | 305 | パーム油 12 405 | 天然ゴム | 128 自動車 18 516 |
| 木材 | 70 | 天然ガス 11 845 | トウモロコシ | 81 天然ゴム 7 896 |
| パーム油 | 47 | 石油 9 646 | すず鋏 | 80 石油製品 7 798 |
| 鉄鉱石 | 38 | 石油製品 7 941 | 野菜 | 54 魚介類 6 981 |
| 計 | 1 331 | 計 198 800 | 計 707 | 計 195 371 |

| | c | | d | |
|-----|-------|-------------|-------|----------------|
| | 1968年 | 2010年 | 1969年 | 2010年 |
| 木材 | 229 | [x] 33 521 | 石油 | 333 石炭 18 160 |
| コブラ | 136 | 自動車 1 861 | ゴム製品 | 146 [x] 15 500 |
| 砂糖 | 132 | [y] 1 764 | 天然ゴム | 52 天然ガス 13 459 |
| ヤシ油 | 80 | ココナツ油 1 266 | コーヒー | 50 石油 10 403 |
| 銅鉱 | 79 | 精密機械 1 199 | 石油製品 | 46 天然ゴム 7 295 |
| 計 | 946 | 計 51 432 | 計 800 | 計 158 074 |

(100万ドル, Commodity Trade Statistics Database)

- 問1 表の輸出品目[x], [y]は、それぞれ①～⑤のどれか。 [x] 1 [y] 2
- ① 小麦 ② 機械類 ③ ポーキサイト ④ 衣類 ⑤ 大豆
- 問2 表の国(a～d)は、地図(a～c)のいずれかに該当する国である。それぞれ①～⑥のどれか。
① ア ② イ ③ ウ ④ エ ⑤ オ ⑥ カ a 3 b 4 c 5 d 6
- 問3 表のaの国において、パーム油は重要な輸出品である。正しい理由は①～④のどれか。 7
- ① 先進国の食品加工工場では、これまでのオリーブ油に代わり、健康によいパーム油を大量に使うようになったから。
② パーム油は、石油系の洗剤に代わって、自然環境にやさしい洗剤として大量に使われ、また食用油としても利用できるから。
③ パーム油からのアルコール製造が簡単であり、自動車用バイオ燃料として大量に使われるから。
④ パーム油を豚・牛の飼料とすると肉質が向上するため、先進国に大量に輸出するから。

センター 第5問 現代世界の諸課題 問2

問2 次の写真1は、アメリカ合衆国カンザス州にみられる土地利用を上空から撮影したものである。写真1中の円形の土地利用とそれにかかわる環境問題を説明した文として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

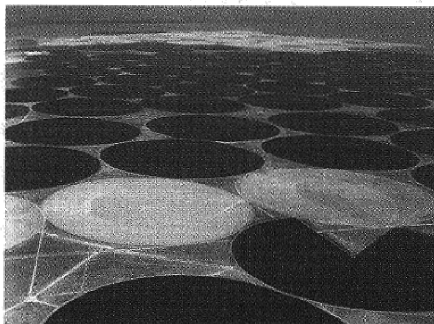


写真 1

- ① 州が土地を買い取って区割りし、大規模な養殖池が設けられている。
- ② 地下水を利用した灌漑農業が行われ、塩害などが懸念されている。
- ③ 土壌流出を防ぎ緑化を推進するため、計画的な植林が行われている。
- ④ 肉牛肥育が行われており、排泄物による汚染が問題となっている。

センターピボット 発展解説 ▶

第5問の問2は、アメリカ・カンザス州のセンターピボット農法の耕地の航空写真からの出題。広大な砂漠に緑の円盤が続く大規模灌漑農業である。砂漠地下から強力モーターで地下水を汲み上げ、農薬や化学肥料などを加え、半径400mの巨大なスプリンクラーで散水する。汲み上げによる地下水の枯渇のほか、塩害や有害物質の混入、水温上昇などの問題がおきている。同じような光景は、GoogleEarthを使えば、リヤド(サウジアラビア)やウルムチ(中国)近郊でも見ることができる。

サウジアラビアは原油輸出で得た収入でアメリカから灌漑技術を輸入し、センターピボット農法で小麦、じゃがいもなどを栽培する。砂漠が国土の80%を占めるサウジアラビアの地下水は、第四紀の湿潤な時期に貯えられたもので、ほとんど補給のない化石水である。現在の地下水使用量では、2020年までの枯渇が予想されており、水を大量に使う小麦から、花・果実・野菜などの園芸作物へ転換が進んでいる。

的中!

解答解説編

7 地下水 (p.15)

指針▶ 地下水は淡水であれば飲用水として利用することができる。1000mをこえるような深い地下水層から汲み上げたり、岩塩層を通ったりすると、地下水には塩分が多くなり、利用が難しくなる。

解答 1② 2④ 3⑤ 4② 5③ 6②

解説 1 写真1は、東京都羽村市の「まいまいず井戸」。武蔵野台地の西部は、地下水面が深いため、深い井戸を掘る必要がある。かたつむり(まいまい)状の坂道を下って井戸に行き、そこから約6mの井戸水を汲み上げる。羽村市のまいまいず井戸は1962年まで利用されていた。図1の地下水は、①宙水、②自由地下水(不圧地下水)、③不透水層、④被圧地下水。

2, 3 ①× 稲作は水を大量に使うので、灌漑農業には適さない。②× 等高線耕作ではなくセンターピボット農法。この農法では、地下水を汲み上げ、アーム型のスプリンクラーで散水する。円形の農地「緑の円盤」ができる。なお、等高線耕作は、土壌が流出しないように、等高線を描くように高度別に作物を変える。作物が異なると、裸地の時期が高度により異なり、土壌流出を防げる。③× アパラチア山脈東麓は滝線都市を含む大都市が多く、園芸農業が発達している。ロッキー山脈の東麓が正しい。オガララ地下水の被圧地下水を利用する灌漑農業が盛ん。小麦・大豆・トウモロコシなどが栽培される。④○ オガララ地下水はロッキー山脈の降水・積雪が数万年をかけてつくったもの。センターピボット農法による過剰な汲み上げのために、地下水が減少。より深くから灌漑用水を汲み上げているが、水温上昇や有害物質の混入などの問題がおきている。⑤○ 作物を変えても、灌漑用水は農地から肥沃な土壌を奪って流出する。これを防ぐのが等高線耕作だが、大型農業機械に適さない等高線耕作は減少している。また、センターピボット農法では灌漑した水の蒸発により、地面の塩分濃度が上昇する。

完全マスター問題 p.15 地下水

7 地下水

基本 標準 応用

地下水の利用について、写真と模式図を参照し、各問いに答えよ。

問1 写真1は、東京都羽村市の「まいまいず井戸」である。らせん型(かたつむり型、まいまいず型)の細道を下りて、約5m下にある井戸の水を汲む。屋根でおおわれている部分に井戸がある。この井戸が利用する地下水は、図1の①～④のどの層か。 1

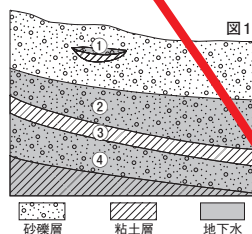


写真1

問2 写真2は、アメリカの大規模灌漑農業を空撮したものである。正しい説明を①～⑤から二つ選べ。 2 3

- ① 水を大量に必要なとする稲作農地が多い。
- ② 景観から、等高線耕作ともいわれる。
- ③ アパラチア山脈東麓の灌漑農法である。
- ④ 地下水の枯渇が問題になっている。
- ⑤ 土壌の塩害や流失の問題がある。



写真2

解答解説編 64 頁
関連知識まで丁寧に解説。
自学習にも活躍!